

自分を変えるために

3年A組 森下穂乃香

どんなにつらくても、どんなに最低な人生でも、人は誰だって行動や気持ち次第で自分を変えられると思います。

私は夏休みに、「カラフル」という映画を観ました。主人公の中学3年生の小林真は、学校では友達もいず、いじめられ、頭も悪く、母は不倫、父は利己的、兄は真を嫌い口も利かない、そして、真が思いを寄せていたひろかという女の子は援助交際をしているという最低な人生に嫌気がさし、自殺をします。でも、もう一度人生をやり直すというチャンスを与えられ、再び小林真として生き返ります。

与えられた期間の中で、真はいろんな経験をして変わっていきます。最後には親友ができ、家族の大切さにも気付くことができ、最低な人生が幸せな人生になりました。真は自分を変え、友達を作り、家族の気持ちを理解し、現実を受け入れるようになったから幸せに変わることができました。私がこの映画から学んだことは、自分で自分のイメージを作ってはいけないということと、人は絶対に変われるということと、素直になり相手の気持ちを理解することはとても大切だということです。

私は今の自分じゃダメだと思い、行動を起こしてみることにしました。そこで、祖父の家に行きました。祖母は4年前に亡くなっていて、今は祖父と犬で暮らしています。私の家から近いにも関わらず、私は人と関わることが苦手だし、何を話したらいいかわからないし、少し面倒くさいという気持ちもあったし、自分のことで精一杯と自分で言い訳をして、会いに行っていないでました。それなのに祖父はいつも私のことを思い、お菓子をくれたり、お小遣いをくれたりといろんなことをしてくれました。そう考えた途端、祖父に会ってお礼を言わないといけないと思いました。

呼び鈴を鳴らし、祖父が出てきて、私が「おばあちゃんに線香をあげに来た。」と言うと祖父は笑顔で「よく来たね。」と言ってくれました。線香をあげてから、たくさん話をしました。本当は線香をあげたら少し話をして帰るつもりでしたが、祖父の嬉しそうな顔を見ていたら次々に自分の口から言葉が出てきました。いろんなことを話せてすごく楽しいひと時を過ごすことができました。自分と会うことを、話すことを嬉しいと思ってくれる人がいるのは幸せなことだと思いました。ずっと会っていなかったのに犬が私のことを覚えてくれていたこともすごく嬉しかったです。人は何年も生きれる訳じゃないから、いつかは必ず別れが来てしまいます。それが分かっているからその人と過ごせる1分1秒を大切にしようと思えるのだと思いました。そして、今のこの家族がいて、友達がいて、学校で勉強をしてという現状もいつかは変わってしまうから、今しかないから今の自分ができる最大限のことをして、日々大切に過ごしていかななくてはいけないと思いました。少し行動してみただけで、たくさんのに気付くことができました。人は変わろうという気持ちさえあれば、絶対に変われると思います。自分が変われば周りの人も変えることができます。何事も自分の行動次第です。

祖父に会いに行ったことは自分を変えるための第一歩です。私は、誰かを笑顔にできるような、喜ばせてあげられるような人になりたいです。そして、これからもカラフルのような、自分を変えてくれるものに出会っていきたいです。

